

## 神戸市 ウェアラブルデバイス推進会議（第 3 回） 議事要旨

出席委員＝塚本、上善、寺田、富田、中内、西田、福田、村岡

欠席委員＝稲見、杉本

オブザーバー＝坂本 賢志（株式会社アシックス 経営企画室）

事務局（神戸市）＝松崎、長井、磯部

### 1. 神戸マラソンでの実証事業について

【坂本氏】別添資料「2015 神戸マラソンにおけるウェアラブル実証実験」により説明

- ・今回はスマホ不要の自立型アプリを活用したウェアラブルデバイス 3 種類（スマートバンド、スマートヘッドフォン、スマートウォッチ）を使った実証実験を行う。
- ・スマートヘッドフォンに関しては両耳をふさぐため、公募せず関係者が装着して走行する。
- ・準天頂衛星みちびきを活用したスマートヘッドフォンによる実験は、コース幅が狭いうえに高いビルが多いという、GPS 走行軌跡追跡には最も不利な環境下において走行するという意味で、神戸マラソンで検証する価値がある。
- ・アシックスのウェアラブルページを立ち上げ、実証協力ランナーを募集。最初の 4 日間だけで 150 名からの応募があった。
- ・スマートバンドは 5 キロごとに操作が必要なため、操作を促すプラカードを持つ人を 5 キロごとに配置する。
- ・当日アシックス本社に一般公開型の実証実験運営基地を設ける予定。歩数や歩幅など本人のデータを 11 月中には結果通知したい。希望者にはその日にプリントアウトできる。最終的には他のランナーと比較したデータを提供する予定。

【塚本委員】昨日の大阪マラソンでデバイスが不調になり、操作に手を取られ内臓に負担がきた学生がいた。操作性が悪いとそれがストレスになり内臓にくる。やはり慣れは非常に大事だと実感した。このようにみんなが使えるものとなっていない想定でこそやる意義がある。

【西田委員】走行データと併せて、気温・湿度・風力などの地理情報をオープンデータにして今後の展開などに活用するという観点が必要。

【塚本委員】例えば最も目標とする人が多い「4 時間」や「4 時間半」を切る人のデータをオープン化できれば面白い。他のランナーも参考にできるし、研究にも活用できる。

【西田委員】沿道の声援がランナーに与えるメンタルな影響も大きいので調べるのも面白い。

【松崎】オープンデータにつなげる取組みは、シビックハックの概念にもつながり、学校現場にも活用することができる。

### 2. 前回の推進会議を踏まえた意見交換

#### ①医療・介護分野

【長井】介護現場の現状とニーズについて本市高齢福祉課にヒアリングを行った。

- ・「介護現場は IT 化が遅れている」ということが少し独り歩きしている面がある。
- ・介護現場といっても、訪問サービス・通所施設と入所施設があり、現状やニーズも異なる。
- ・訪問サービスにおいては、一定 IT 化が進んでおり、サービス利用者に対しタブレットを配布し、個別に必要な情報を送るなど、情報伝達に活用している都市もある。
- ・一方、入所施設においては、介護のシーンで IT を活用していることはなく、IT 導入に対するニ

ーズもあまりない。

- ・ITが活用されているといえば、介護職員の労務管理に活用されており、シフト管理・ヘルパー登録などを行い、通常シフトでまわらない時などに登録しているヘルパーを呼ぶことができる仕組みもある。
- ・高齢者や障害者に対する活用については、いろいろとアイデアはある。例えば、①視覚障害者が持つ杖にセンサーを付け、障害物等が接近した際に知らせる。②道に迷ったお年寄りの方に、個人のレベルに合わせ、バリアフリーも考慮した道案内をするようなもの。③認知症の方が行方不明になった際に発見を促すようなもの、などが挙げられる。

【村岡委員】詰所に職員がいなくても、緊急ボタンで職員に伝えるしくみなどはアプリ開発すればすぐにできる。

【寺田委員】ある大学の実証実験で、音声を認識してヘルプが必要な状況かを判断する実証実験を行っていた。新しいことをするのは難しいので、シンプルで確実に役立つものを実証することが大切である。

【寺田委員】神戸大学の保健学科との取組みで、服の中にゴムを仕込み、激しい運動時の呼吸をゴムの伸縮で測定している。スマートシャツのようなもの。

【西田】呼吸から測定できることは多い。平常時では精神状態なども確認できると聞かすが、活用の幅は広いだろう。

## ②防災・減災分野

【松崎】防災福祉コミュニティでの避難訓練などで何かできるのではと考えている。同じパターンを繰り返していても参加者が減っていくので工夫が必要。

【塚本委員】ドイツのレスキュー隊が心臓マッサージの際にウォッチの指示で行っていた。これによって心臓マッサージの良し悪しがわかる。一方でこれに頼り、事故があった時の責任が不安。

【西田委員】災害時にしか使えないものをつくるより、日常的に使っているものを災害時に転用できるほうがよい。

【村岡委員】災害時にインターネットに頼るのは危険。自立型のしくみの方がよい。先ほどの準天頂衛星から情報を受け取れるなどインターネット以外のインフラが整いつつある。

## ③その他の分野

【塚本委員】ウェアラブルで「ダルマさんがころんだ」をすると厳密にすることができる。

【坂本】海外ではドローンで橋梁点検やサッカーやラグビーの試合で空から選手の動きを撮影している。

## 3. シンポジウムの開催についての検討

【長井】年度末に市民向けにウェアラブルの取組みを報告あるいはウェアラブルに触れていただく場として開催したいと考えている。

【塚本委員】市民への啓蒙のために講演会やデモ展示を行ってはどうか。

## 4. 次回（第4回）について

- ・日時 平成27年12月24日（木）16:00～18:00
- ・会場 神戸市役所4号館1階4011会議室